

教職員・院生版生協だより

No. 276

2008年3・4月号

発行 名大生協理事会

編集 名大生協教職員委員会

☎ 学内線 7540, 学外線 781-1111

かけはし



ちょっと飲み過ぎてしまった
ミステリー酒蔵ツアーの参加者

名大生協のホームページ(URL) <http://www.nucoop.jp/>
教職員委員会へのe-mailあて先 kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

も く じ

【主張】

07年度のご利用ありがとうございました。新入生、新入教職員 を暖かく歓迎しよう -----	3
--	---

【企画案内】

愛岐三山ハイキング&バーベキューのご案内 -----	4
マルセパン工場見学のご案内 -----	5

【報告】

3・17 総代・組合員懇談会の報告 -----	6
平和憲章 21 周年記念企画 「硫黄島からの手紙」「父親たちの星条旗」上映会に 30 人参加 -----	-6
自然の贈り物きれいな真珠と美味しいお酒 -----	7
豊川海軍工廠跡地戦跡見学ツアーの報告 -----	8
教職員委員会合宿の報告 -----	22
教職員委員会活動日誌 -----	22

【記事】

新フィールドノート-その 105 - 「学生時代と言う過去のフィールドにて」-----	10
--	----

新フィールドノート-その 106 - 「大学院時代から名古屋大学へ」-----	12
--	----

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ⑤ 「外国から侵入して来たゾウムシ」-----	14
---	----

魔言「用語の問題」「特製納豆のレシピ」-----	16
--------------------------	----

ニュースに一喝！ 「学習指導要領の改訂」「自転車乗りの思い」-----	18
--	----

ある団塊世代の読書ノート②「科学の本（上）」-----	20
-----------------------------	----

かけはしの輪 -----	25
--------------	----

アンケート・クイズ解答用紙 -----	24
---------------------	----

CO-OP QUIZ< Logic > -----	26
---------------------------	----

【送別特集】

それぞれの思いで一退職される教職員の方々から- 「理系カフェテリアと緑のトンネル」大村百合 -----	I
「名古屋大学の思い出」杵名宗春 -----	II
「名古屋大学の思い出」島田康弘 -----	III
「名古屋大学生協と「かけはし」の思い出」広木詔三 -----	IV
「思い出一生協の存在理由あれこれ」福家俊朗 -----	V
「名大生協の思い出」星野香 -----	VI
「記憶に残った答案」前田尚利 -----	VII

主張

卒業式も無事終了し、桜の花が開き始め、待ち遠しかった春ももうすぐです。名大生協では2月が年度末となっており、3月は新年度の始まりで新学期の準備の時期です。

生協では2月初旬の段階まで経費を抑えながら頑張ってきましたが、予算達成が難しい状況でした。しかし、2月全体での利用が

大きく伸張し、事業剰余も当期剰余も黒字にすることができました。昨年夏の北部厚生会館1階の全面改装、共通教育棟改修に伴うプランゾに替わるお店への設備投資など大きな出費がありました。大学構成員の皆様の利用結果により、なんとか黒字にすることができたのは本当

にありがたいことです。心から感謝申し上げます。

教職員にも区切りとして名古屋大学を去られる方が多数おられます。特にこれから2年程は団塊の世代が多数退職されることとなります。年金の支給が3年遅くなることにより、再雇用制度が導入され希望者は継続し

を突破してきた青少年たちです。

また大学院への進学生も相当数おられます。我々教職員も含め、学生の先輩たちが温かく迎え、不安のない大学生活が迎えられようになりたいものです。

生協では、生協職員と学生委員会のメンバーが昨秋より新歓プロジェクトを立ち上げ、助言

食堂を中心に新入生の新学期生活の準備のお手伝いをしてきており、ガイダンスにも生協の説明を準備しています。今年は豊田講堂の改修が終わり、大変綺麗になった会場で卒業式および入学式が執り行われますことは学生さんたちにとってもご父母の方々にとっても大変うれしいことと思われま

07年度のご利用ありがとうございました

新入生、新入教職員を温かく歓迎しよう

て働くことが可能ですが、出来るだけ同じ業務が出来る環境で色々な技術、知識などのノウハウを残してもらい、教えてもらったり、後進の指導をしていたただくことは将来の名古屋大学にとって重要なことと思います。

4月に入ればまた新入生が入ってきます。大学受験の難関

や冊子を作成して学生生活の不安を少しでもなくしてもらうこと、アパート・下宿の斡旋や生活用品、勉強機器および家電、音響製品の提案、学生たち相互が助け合う卒業までの学生総合共済などを準備して張り切って大学生活をスタートしてほしいと望んで頑張っています。南部

名古屋大学では運営費交付金削減や大学法人を含む人員削減の法律など、人件費抑制政策の影響で職員の採用は少ない状況が続いています。組合員の皆さんには、周りに新しい方がお見えの時はぜひ名大生協のお店を紹介していただき、生協に加入して楽しく大学での勤務をされるよう勧誘をよろしくお願いしたいと思います。

春のハイキング&バーベキュー ー内津峠から愛岐三山へー

愛岐三山とは愛知県（春日井市）と岐阜県（多治見市）の県境を成す弥勒山（437m）、大谷山（425m）と道樹山（429m）の三山をいいます。今回はこの愛岐三山に登ります。登るといっても低い山ですし、東海自然歩道の山ですから整備された登山道で、手軽に登れてファミリー登山にはもってこいの山です。

愛岐三山登山の後は、多治見市三の倉市民の里「地球村」にて、バーベキューを行います。先発隊が先に準備をしていますので、登山参加者の方は食べるだけになるかも知れません。少し遅めの昼食を「地球村」で摂ってくつろいだ後、名古屋に向けて帰ってきます。

春の愛岐三山に登ってみませんか。帰りには温泉入浴も予定しています。

日程：2008 年 **5 月 10 日**（土）

集合時間：**9 時 00 分**集合・出発

集合場所：名古屋大学博物館前

行き先：**愛岐三山**
（弥勒山・大谷山・道樹山）

参加費用：**1 5 0 0 円**

小人 **8 0 0 円**

（往復交通費、昼食代、入浴料、保険料など）

募集人員：1 4 名

服装・持ち物：ハイキングに適した靴、服装、雨具水筒、おやつ、リュック、帽子、手袋等

問い合わせは：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

参加申込は：クイズの解答用紙または <http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/application.html>





マルセパン 工場見学のご案内

マルセパンは北部購買部、南部購買部、パンだが屋、IB カフェ、プランゾ、理系ショップなど生協のお店で取り扱っているパンのメーカーです。マルセパンは岐阜県不破郡垂井町で 40 年地産地消・安全安心をキーワードに時代の流れ、ニーズにあった商品づくりを目指しています。添加物や保存料を使用しないことはもちろん地元の食材、オーガニック、国産の素材を積極的に使った安心・安全なパンです。

各お店でマルセパンを利用されているみなさん、パン工場を見学し、パン職人さんと交流しながら、消費者の声と組合員のニーズを届けにいきましょう。

日程：2008 年 **5 月 17 日** (土)

行き先：岐阜県不破郡垂井町 **マルセパン**

集合時間：**9 時 00 分**集合

集合場所：名古屋大学博物館前

参加費用：**無料**

定 員：12 名程度



問い合わせは：kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp

参加申込は：クイズの解答用紙または <http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/application.html>



3・17 総代・組合員懇談会の報告

3月17日12時10分よりグリーンサロン東山・和室にて総代・組合員懇談会を開催し、8名の方に参加していただきました。

理系地区の利用者からダイニングフォレストの提供する食事について以下のような指摘がありました。器械によって提供される味噌汁の評判がよくない。具が少ないし、いつも同じ具である、味(ダシ)が薄いなど、あれではインスタントの味噌汁と同じではないか。具についても豆腐や、アサリ、ナメコ等適宜変えられないのか、という要望が出されました。たまには赤だし味噌汁を出してもいいのではないかと思えます。また、豚汁もあるが100円と高い。量が多くて女性には不向き。Sサイズを提供してほしい。

ご飯の盛りつけについても量らないとスピードは速いが量が少なく感じる時がある。量ると時間がかかり行列ができる。利用者側に秤を置くか、どちらも秤の目盛りが見られるものできないか。という意見が出されました。レジについてレシー

トを出すべきでは? カロリーが表示されていればなおよい。現在では合計金額を信用している状態とのことでした。

理系ショップについては土曜日の閉店時間をもっと遅くできないか。という要望がありました。

土・日の生協営業について、学内コンビニが図書館利用者を中心に土・日よく利用されている。生協も土・日を含めた組合員への利便性アップを検討してはどうか? という意見。

購買について、お菓子など地域生協と比較して全般的に高い。せめて同じレベルにならないか? 最初からコンビニに勝てるはずがないと思っていないか? などの意見が出されました。

北部厚生会館の1階(事務機器・購買、旅行・サービスセンター)に関して、昨年秋季に全面リニューアルしてから半年が経過しました。学生、院生、教職員の皆さんに協力していただいてアンケート活動を行う予定です。アンケートの質問内容は何を購入したか、どんな商品を置いて

ほしいか、どこを充実させてもらいたいかなど今後検討して新学期の時期に行う予定にしていますので、気軽に協力いただきたいと思います。

上記の貴重なご意見はその日の夜の理事会に報告されましたので、各店舗におろされ改善へ

平和憲章21周年記念企画

「硫黄島からの手紙」「父親たちの星条旗」上映会に30人参加

名古屋大学平和憲章が制定されたのは21年前の1987年2月5日です。教職員委員会ではこの2月5日にこだわって毎年平和憲章企画を組んでいます。今年は一昨年のお話作クリント・イーストウッド監督の「硫黄島二部作」の上映会を企画しました。2月5日に「硫黄島からの手紙」2月12日に「父親たちの星条旗」を上映しました。参加者の感想を記して、報告いたします。

○なんとも胸がつまってしまいました。(原宜子)

○硫黄島での戦いについては全く知識がなかったもので、非常に興味深く、鑑賞させていただきました。(院生)

の検討が始まると思います。この懇談会は毎月行う予定にしていますので、参加いただいたり、メールなどで今後とも生協のお店についてのご提案やご意見をぜひお寄せください。店舗運営の改善に役立てていきたいと考えています。

○日本側の戦争映画を初めてみました。戦争の悲惨さがとても伝わってきました。二度と戦争があつてほしくないと思います。○戦争のむなしさ、人間が敵と味方に分かれて殺し合うことの無意味さを痛切に感じた。(OB)○戦争のむごたらしさがリアルに描かれていた。以前の戦争映画と違い、「硫黄島からの手紙」もそうだったがどちらの側にも立つことなく・・・。(高木)

○事前の予備知識が不足していたせいか少しむづかしかった。ただ、戦争に対する反省という点か批判が前面にでていた点がアメリカの映画にしては意外だった。(学生)

ミステリー酒蔵ツアーの報告

自然の贈り物

きれいな真珠と美味しいお酒

昨年が続いて今年もミステリー酒蔵ツアーを行いました。三重大学生協との協力により今回は鳥羽のミキモト真珠島の見学と元坂(げんさか)酒造さんに酒蔵の見学と試飲をお願いしました。東海地区の大学生協教職員にも交流企画として東海地域センターを通して案内されました。2月23日(土)名古屋大学



松月清郎(ミキモト真珠博物館館長)と貴賓室にて

から5名、地域センターから2名、三重大学から4名の参加がありました。8時半に名古屋大学に集合し、途中渋滞があり2時間半かかって鳥羽のミキモト真珠島に到着し、電車組、三重大学の参加者と合流しました。ミキモト真珠島では風を防げる貴賓室で海女さんの実演を見学しました。その後、真珠博物館に移り松月館長による御木本翁の生い立ちや養殖真珠を成功させるまでにいろいろな仕事や人脈があったことが説明され、相当の苦労があつて世界に誇る養殖真珠が作られていることが分かりました。館長のお話の後、真珠博物館を時間をかけて



貴賓室から海女の実演を見学

見学しましたが、どのコーナーも丁寧な説明で質問にもしっかり回答してくれました。よい真珠のできるのは限られていて自然が作るものには大変な苦労があり、高価なのもむべなるかなと感じました。レストランで昼食をいただき、思い思いに真珠のおみやげを買い、お礼を言つて多気郡大台町にある元坂酒造に向かいました。

30分強で元坂酒造に到着。早速お酒造りの蔵を案内してもらいました。大きな樽に一度に仕込むとうまうまいかないので三度に分けて仕込む三段仕込みをするというのを初めて理解しました。醸造途中のお酒も絞ったばかりのお酒も試飲させていただきました。今回はお座敷に案内され、おつまみも準備していただいて純米大吟醸酒など長い時間楽しく歓談しながら試飲というより宴会に



仕込み樽をのぞきながら説明を聞く参加者

近い形での試飲会でした。参加者一同大満足でおみやげのお酒と酒粕を購入して帰路につきました。参加者からせつかく松坂まで来たので焼肉を食べて行こうという声に即座に賛同し、地元三重大学のおすすめの松坂駅前の有名な焼肉店によって松坂牛とビールでさらに盛り上がりました。外の天気は雨から雪に変わり一部猛吹雪となった高速道路を通りましたが、全員無事名古屋に到着しました。今度は皆さんも美味しい話にご一緒しませんか。

豊川海軍工廠跡地戦跡見学ツアー

今なお豊川空襲の惨劇を残す

戦争遺構の数々

全学技術センター 河合利秀

2008年1月27日、豊川海軍工廠跡地見学会に名古屋大学からは総勢5名で行ってきました。

この企画は平和憲章委員会と生協教職員委員会の共催によるもので、文字通り豊川海軍工廠の跡地を廻るツアーです。



見学会に集まった200名を超える参加者

「豊川海軍工廠の保存をすすめる会」が毎年実施している冬と夏の現地見学会にあわせ、桜ヶ丘ミュージアムや豊川観光案内所の常設展示を見て豊川空襲の全貌を確認し、保存をすすめる会の皆さんとの意見交換や戦争体験者の話を聞く機会を設けたり、豊川稲荷の裏手にある慰霊碑や諏訪地区にひっそりとある大学や女学校の慰霊碑をみて犠牲者の実相を確認する中で、戦争と平和の問題を考えてもらおうという主旨で実施しました。

豊川海軍工廠跡地とは、名古屋大学太陽地球環境(STE)研究所として使われている敷地をさします。しかし、我が名古屋大学の敷地の中に国内有数の戦争遺跡があることを知っている人は少ないと思います。ここがどのような場所であるかを知っていたために、豊川海軍工廠の悲劇に関わった叔父の話を紹介しします。

叔父が豊川海軍工廠の関係者であることを知ったのは私が小学校高学年の頃でした。8月になると必ず豊川の慰霊祭に出席していたようで、その理由を尋ねたことがきっかけでした。

叔父は当時国民学校の生徒として豊川海軍工廠に動員され、働いていました。ちょうど8月7日の少し前に体調を崩し、実家に戻って療養していた間の惨事でした。叔父は海軍工廠が爆撃されたとの報をうけすぐに現地に赴きました。しかしものすごい惨状を目の当たりにして足が竦み、しばらく動けなかったそうです。爆撃でばらばらになった遺体は黒焦げで男女の区別も出来ず、腐敗のすごい臭いと蠅がたかりで正視できないものばかり。大八車の荷台に載せて正面入り口付近(諏訪地区)にできた大きな穴に放り込んでいたのがついに山のようになつたそうです。そこに何人の遺体があつたかは作業をした叔父でさえ分かりません。これらの遺体はそのまま土を被せ何年も放置されました。当時は情報統制が厳しく、大本



朽ち果てる薬莢乾燥室

営発表に原爆も豊川空襲もありません。海軍工廠の悲劇はかん口令によって封印され、豊川の人々でさえ惨状の全貌を知ることができなかったのです。

戦後の混乱が落ち着くと遺体を埋めた場所の発掘などもあり、犠牲者の遺族が「87(はちなな)会」を結成されてからは慰霊碑が建立され、犠牲者氏名の確認作業と慰霊祭が毎年執り行われるようになりました。

叔父は級友を多く亡くした悲しみ以上に、「自分の身代わりとなつて死んだかもしれない」「自分がそこにいたら誰かを助ける



地面に溝を掘っただけの防空壕

ことが出来たかもしれない」と言い、死んだ級友たちに申し訳ないという思いが強くあったようです。

豊川空襲の犠牲者は2477名とされていますが、当時行方不明になった人や病院の記録などの資料から分かった人を入れると2700名以上。3千名を超えたとする人もいます。

87会は関係者が高齢化したことで慰霊祭を実施することが困難となり解散しましたが、豊川海軍工廠跡地保存をすすめる会は今も活動を続け、会報「けやき」の発行と現地見学会、87会で行っていた犠牲者氏名の確認などの

作業を引き継いでいます。

人間が道具以下に軽んぜられていたことを豊川海軍工廠跡地の遺構は語っています。工場そのものは立派ですが防空壕などは人間を避難させるのではなく、重要な工具を持つて避難させ、空襲警報が解除されたらすぐに生産を再開できるようにと考えられたものです。1m程度の深さの塹壕の上に板を載せて土をかぶせた簡単なもので、直撃弾を食らえば壕のものは全滅です。人を助けない防空壕にこういう意味があるのか。狂気の仕業としか思えません。

今年の名大祭には、平和憲章委員会と生協ユニセフ班と共同で「ミニ平和資料館」を実施します。6月7日

一刻も早い学術調査・保存が望まれる

法学部 鈴木結子

1月27日にSTF研究所にて行われた、豊川海軍工廠跡地現地見学会に参加しました。当日は寒空の中、約200名もの参加者が集まっており、盛大な会になりました。

豊川海軍工廠跡地は、文化庁戦跡指定にも選ばれている、貴重な戦争資料のひとつです。しかし、60年の年月によって損傷が進んでおり、一刻も早い学術調査・保存が必要とされています。実際に建物などを見ても、



機銃掃射の跡を残す資材置き場の壁

傷みが激しいことはよくわかりました。機銃掃射の跡などがくつきりと残っていたはずの建物も、壁などが崩れ始めており、そこに豊川空襲の跡を見ることは、だんだんと難しくなってきました。

敗戦の色が濃くなった45年8月7日に豊川空襲がありました。多くの女学生や若い国民学校の生徒たちが犠牲になる必要はあったのか、戦争というものがいかに人の心を残酷なものにしてしまうか、疑問と恐怖を感じざるを得ません。

しかし、今の豊川海軍工廠跡地からは、そこにあったはずの阿鼻叫喚の後継は想像しがたく、自分の想像力の乏しさを痛感しました。

過去の戦争を想像することともに、未来に向けた、例えば「九条が代わったらどうなるか？」ということ想像するのは、自分を含め今の若者にとっては難しいかもしれません。そのようになかで九条の存在を訴えるために、どのように活動を進めるのがいいのか、振り返られるよいきっかけとなりました。

学生時代と言う過去の

ファイルドにて

情報科学研究科 広木詔三

研究室に着くと、まずコンピュータにスイッチを入れる。そのうちデスクの画面が明るくなる。最近画面がとても暗い。寿命が近いのかも知れない。でも、そのうち全然暗く感じなくなる。目が慣れるのだろう。

夜、家で寝るときもそうだ。就寝直前に明かりを小さくする。睡眠薬を飲む。軽いのを一錠。明るい電気を消したときは一瞬、真っ暗に感じる。薬が効いてくるまでにしばらく時間がかかる。そのうち、部屋がとても明るく感じるようになる。書棚の本の背表紙の文字が読める気もしてくる。最近、安売りのブックオフで購入した井上ひさしの本がある。だが、老眼のせい、さすがに文庫本の背文字までは読めない。

そうだ、このことをかけはし

に書こう、という意識が働く。考え出すと、いろんなことが浮かんできて、いくらでも書けそうである。そういうときは、なかなか寝付けないものである。

私は昭和三十九年に東北大学の理学部に入學したのだが、當時は学科に所属するのは三年次になってからであった。この当時、就職のしやすさから物理学科や化学科に人気があり、私の成績ではそれは無理であった。数学科と生物学科なら第一志望で進學出来るときいていた。當時の東北大学は仙台の一番町のはずれの片平町にキャンパスがあり、生物学科はそのキャンパスの東北部の隅に位置していた。その古めかしい赤レンガの建物を實際に見学して、第一志望で生物学科を選ぶ決心をしたのだった。三年生として私と一緒に

に生物学科に進學したのは十七名で、定員の三十名よりもずっと少なかった。その中には、年を食って猛者という感じの、発生の平井教授の息子というのもあった。

思い起こしてみると、私は小学校の頃は生き物とその進化に関心があったのだが、高校で生物の遺伝子の分野で赤点を取り、それ以来、生物の勉強はしなくなってしまった。大学の二年次に、体育の実習で蔵王にスキーに出かけ、生物学の試験を受けず単位が足りずあわや留年という経験をした。樹氷も林立しているたいへん急な斜面で滑らされ、恐ろしくなつて滑らずにスキーを担いで歩いて降りた記憶がある。生物学は相変わらず苦手で、生化学の最先端の授業が五百人近くのマスプロ教育で行われ、単位を取得したのが嘘のようである。語学の授業はクラス百人の授業であったが、語学の授業にはすべて真面目に出席した。私はいつも一番後ろに座つたが、当時はおしゃべりする者はいなかったのでとくに

問題はなかった。さまざまな語学の授業があった。英語以外は本当に語学であった。英語のパーランド・ラッセルの哲学書はほとんど理解できなかったが、ID サリンジャーの“The catcher in the rye”は半期で通読した。その後も何度読み返しただろう。テキストが今ではぼろぼろになっている。

最近、アンタ・シュレーヴの“The last time they met”という本を読み終えた。三度目のチャレンジであった。一度目は三十一ページほどでダウンした。二度目はそれより少し進んだ。もう読まずにこの世ともお別れかという比較的最近のことである、ついに読み通したのは。第一章では、それぞれ異なる道を歩んだ五十二歳という老年期にさしかかった男と女が再会し、子供を亡くした話や、互いの過去を話し合う。気づくと本の中に入り込むことが出来た。そうなると思ふからない単語などを辞書で引くのがまどろっこしくなつて辞書を引かなくなる。分からない単語を読み飛ばしてもストーリー

リーはよく分かる。第二章に入ると、彼らが二十七歳のときに、アフリカで最初に再開した場面が描かれる。とても華やかな情景だ。最後の第三章は、彼らの十七歳の出会いのときだ。第一章と第三章は女の視点で、また第二章は男の視点で描き分けられている。若くしてお互いに運命的な出会いと感じたのに、どうして別々の人生を歩まなければならなかったのか。世界的ベストセラーという帯の言葉に乗せられて手にしたのだが、読み通して大きな感慨を感じた。日本語訳の本でも同じ感動を得られたかも知れないが、英語の表現という細かなニュアンスを味わえたことは二重の喜びである。私は大学の二年生のとき、つきあう友達がなく、下宿でサン・テグジュペリの『星の王子様』の英語版を読んで、すでにこのような経験はあったのである。だが、老境にはそれなりの感慨があるものである。

二年生も終わりの時期が近づき、私は友人の勧めに従って、生物学の阿戸田先生のお宅を訪

れた。出身を聞かれて水戸の出だと告げると「水戸の人間はよく単位を落とす」と言われた。「もう一年頑張らなさい」「はい」ということで、夕食をこ馳走になって帰った。家に帰って、父親にもう一年多く大学に通うことを告げたが、何と、お宅の息子さんは進級できました、という通知がきていた。最近、一橋大学の学長経験者である阿部謹也氏の『北の街にて』という本を読む機会があった。名古屋大学の中央図書館に阿部謹也全集が収まっている。彼は一橋大学の二年生のときに、上原専禄先生の三年生向けのゼミに出席の許可を求めて先生のお宅に伺ったのである。彼も夕食をこ馳走になったとあるが、学問に対する熱意に関しては私とは雲泥の差である。上原専禄と言えば、戦後の一般教育の唱導者としてつとに知られている。

留年の瀬戸際を乗り越え、せっかく三年生に進級できたのに、前期はほとんど授業に出ないでしまった。図書館で哲学書を読んだことや、ダーウィンの『種

の起源』を読んだ記憶がある。『種の起源』はまったく退屈であった。最近、原著をほぼ読み終えたが、やはり退屈なのは否めない。生き物についての知識や専門用語をもっと熟知していればおそらく事態は違ったであろう。小説のような訳にはいかない。

基礎をほとんど学んでいない私は四年生のときに誰も選ばなかった講座を選択した。それは植物生態学の講座であった。動物生態学の講座もあり、こちらは割と人気があった。植物分類学の講座も人気がなく、やはり専攻したのは一人だけだった。名古屋大学のように分類学や生態学の無い大学とは対照的であった。当時から、名古屋大学は分子生物学の本場として噂は聞いていた。大学院での植物分類学の授業は受講者が二名という贅沢な授業であったが内容はさっぱりで、私はいつも窓の外の木をいつも眺めていたりするのだった。レンガ造りの建物は木立に囲まれていて、ときにはリスが出没するのであった。

私の所属した植物生態学の講

座には、橘さんという修士課程二年目の女性がいた。その他に学生はいなかった。一人だけ居たには居たのだがドロップアウトしたということだった。この橘さんは博士課程に進めず研究生として長らく居座って自力で就職した女傑だった。彼女から多くのことを学んだ。何しろ私が大学院に進んでからも一度もセミナーは開かれなかったのだ。吉岡邦二先生には一度だけ会津磐梯山を案内していただいた。磐梯山には六年間通った。その間、先生には二つだけ質問した。質問にはきちんと応えて下さった。当時の質問も回答もよく覚えていた。もっと勉強して質問をすればよかったとは思いますが、これも一つの人生であった。しばしば橘さんと先生のお宅にお邪魔して、夕食をこ馳走になった。先生には子供がおらず、客間にはこけしが数多く飾られていた。

原稿を書き終えて、雪がちらつき凍つく夜道を帰りながら、仙台での学生時代を想い起こすのであった。

大学院時代から

名古屋大学へ

情報科学研究科 広木詔三

話は前号のつづきで大学院に進学してからのことである。橘さんや助手の斎藤さんに言わせると、私はよいテーマを貰ったそうなのだ。その意味は後でよく理解できるのであるが、当時は右も左も分からない状況であった。橘さんが博士過程に進学出来なかったのはテーマのせいにもよるかも知れないと私は勘ぐっている。彼女の研究はアカマツの葉によるアレロパシーの研究であった。鉢で育てた他種の幼植物に、松の葉から抽出した物質をかけてその影響を見るという内容である。私が思うに、その研究はおそらく見込みのないテーマであったようだ。女性だからそもそも博士過程に進学するようなテーマを考えなかったのではないか。もちろん研究はやってみないと分からない

いという面もある。しかし、多くの場合、研究には何らかの見込みが必要だ。私はその後、アレロパシーには大きな疑惑を常に抱くようになった。誰かが何かのテキストで覚えたアレロパシーについて一般的に論じると、それはまったく嘘臭く感じるのであった。生態学のテキストに載っている明らかなアレロパシーの現象はもちろん知っている。しかし、クスノキやセイタカアワダチソウに関するアレロパシーの話は実際には誤りであろう。単なる被陰による可能性も高い。実証を伴った裏付けはないのである。私は橘さんの研究における失敗の事例を目撃しているの、そのおかげで批判的な目が養われたと思っている。私のテーマは先生の最後の弟子という意味合いも込められて

いたような気がする。残念ながら私には重いテーマであった。六年間、磐梯山の山腹や山麓をかけずりまわり、植生図を作成するという記載で終わった。会津磐梯山の爆発は水蒸気爆発によるもので、溶岩は噴出せず、山体が崩壊して泥流として流下するという性質のものである。溶岩とは異なり、岩石等の風化が速く、したがって遷移の進行も速いことが期待される。アカマツやヤシャブシ等の先駆種のみではなく、一部の区域ではイタヤカエデやミズナラが侵入している。だが、肝心の極相を構成すると予想されるブナの侵入はきわめてわずかであった。

境問題が世論を賑わせた時期である。面接のとき着任したらどんな研究をしたいかと聞かれて面食らってしまった記憶がある。ふと、野外における実験をしたいと答えたのを覚えている。後に、海岸の塩湿地に生育する塩生植物の研究に野外実験として十年取り組んだがこれはまた別の話である。機会があればお話ししたい。

当時はのんびりした時代で、昼食時には生物系の教員が全員集まっているんな話をするのである。あるとき、私は、コナラの「どんぐり」が落ちてすぐ発芽するという話をした。松原さんがそれに飛びついて、それから松原さんとの共同研究が十年以上も続いた。微生物の生理学が専門の松原さんはいへん優れた研究者だった。あの偉大なパストールが目の前にいたら松原さんのようではないかと思えるほどだ。たいへんな集中力と、鋭敏な観察力と鋭くものごとを解析する力にはただただ感服するばかりだ。三十代で、世界の競争相手に打ち勝って来たとい

うだけある。

スタートは名古屋大学のキャンパス内に生育しているアベマキのどんぐりを毎日拾うことであつた。もちろん九月に入つてからである。松原さんの後輩の理学部の院生がそんなこともわかつていないのか、と驚いてゐた。自然について私達はほとんど何も知らないのだということに気づいたのは彼のおかげかも知れない。十本の樹から落ちたどんぐりを拾うので、ピーク時には千個以上にものなる。そして拾ったどんぐりを恒温槽という器械を使用して発芽させる。一定の温度条件で、シャーレにどんぐりを入れ、水をやる。摂氏五度から五度ごとに三十五度までの七段階の温度条件で実験を行うために、七台の恒温槽を駆り集め、フル回転で使つた。発芽した後は根の長さを測る。一つの温度で百個のどんぐりを使用するから七百個のどんぐりを発芽させたことになる。これをアベマキだけではなく、キャンパス内でどんぐりの拾えるコナラやアラカシをはじめ、遠方

から採集してきたものを含めて、十五種の比較を行つた。中には発芽するのに半年以上も掛かるものもあるから、実験を行つた数年間は明けても暮れても実験であつた。また、松原さんは議論が好きで、いつも帰るのが遅くなつた。でも、セミナーの経験のなかつた私は、デイスカッションの重要性は松原さんとの共同研究で学んだ。

大学院時代に鍛えられていなかった私は松原さんとの共同研究で鍛えられた。だが、研究内容は高度で、共同研究といつても、私は手足のようなものだった。松原さんが実験をしないという意味ではない。彼は猛烈に実験を行うのだ。私は必死に付いていつた。学会で発表するのは私だった。ある年の発表のとき「内容を理解しとけよ」と言われてしまった。今なら研究の内容や位置づけもよく理解出来る。これらの共同研究における主要な成果は六報の論文となつた。最初の三つは和文だったため、なかなか引用されず、世界的には注目されずに終わつた。

松原さんはいい論文なら必ず引用される、と言つていたが、日本人が引用してくれないと、外国人には目が留まらない。やがて、生態学そのものが急速に発展して、私達の研究は古典的な部類に入るようになってしまった。最近でもときどきある学会誌の査読がまわつてくる。ときどき古典的な研究も再現する。

私はその後、愛知大学の市野和夫さんと共同研究をするようになった。スダジイとツブラジイの雑種に関する研究や、三宅島の火山植生に関する研究を始めた。松原さんはそれが気に入らず、それからだんだんと気まぐしい関係になつた。市野さんも生理学が専門で、しかも電気生理学というたいへん難しい分野だ。市野さんも優れた資質を有していたが、私学では実験設備がなく、研究の継続が困難だといふ。彼は大学の理事をも勤めた有能な人で、彼のおかげで大幸財団から研究助成を受けることが出来、三宅島と一緒に調査に出かけた。大幸財団は権威主義的なところがある。市野さん

は仙人のように歩くのが素早く、驚くべきことに、おまけに植物に詳しい。名古屋大学に生態学の講座があつたら、彼は生態学の分野で成功していただろうといふ気がする。松原さんもそうではあつたが。松原さんの場合は生理生態学という生理学を基盤とした分野に向いてゐるが、市野さんは植物学全般に優れた感性を有している。とにかく二人の生理学者との共同研究という幸運に恵まれて、火山植生とブナ科の比較生態というさやかな研究を行うことが出来た。学問研究は基本的には個人の営みではあるが、研究そのものは研究組織や人間関係が大きくものをいう。

今では忘れられつつあるラマルク（進化論の先駆者）や、偉大な詩人のポー（黒猫などで知られる）に私は共感を寄せる。自分を悲劇の主人公と見なして自ら慰めるのである。ポーの大鴉（おがらす）“The raven”はいつ読んでも素晴らしい。あの大鴉のNevermoreという言葉の響きは決して忘れることはないだろう。

東山キャンパスおよびその周辺のゾウムシ⑤

外国から侵入して来たゾウムシ

全学技術センター 井上晶次



写真1 イネミズゾウムシ

274号で東山キャンパスに国内の何処からか持ち込まれたゾウムシを紹介しました。今回は知らず知らずのうちに外国から日本に侵入し、東山キャンパス周辺で定着しているゾウムシを紹介します。

1. イネミズゾウムシ (3.3mm)

北アメリカ原産で、1976年愛知県で確認され、その後全国に広がりました。イネの害虫として嫌われています。

2007年6月、田植えの終わった名大の水田に小さなゲンゴロウが泳いでいるのを撮影しようとしてカメラを準備していたところ、水面をすいすいと泳ぐイネミズゾウムシを見つけました。急いでその方向にカメラを向けたときはすでに遅く隠れてしまいました。イネミズゾウムシが泳ぐことは、ゾウムシ仲間では知られており、写真では見たことがありましたが、

はじめて目の前で泳ぐのを見て感動しました。よく観察すると写真1のように周りのイネにたくさんのイネミズゾウムシがくっついていました。イネとイネの間を移動するのに泳ぐのではないかとしばらく待っていましたが、イネに付いたままでまったく泳ぐとはしません、むりやりつまんで水の上に落としてみましたが、ぶかっと浮かんだまま泳いでくれませんでした。やらせは無理のようでした。今年はまだ少しがんばって泳ぐ様子をカメラに収めたいと思っています。

2. アルファルファタコゾウムシ (5mm)

ヨーロッパ原産で、1982年福岡県で発生が確認されました。

アルファルファはマメ科の植物で、アルファルファ+蛸+ゾウムシですが、どう見ても蛸を想像することはできません。タコは蛸ではないかもしれませんが。平和公園では2000年に初探集しました。東山キャンパスでは2001年写真2のようにアカツメクサに群がっているのを確認し採集しました。その後、平和公園、東山キャンパスのカ



写真2 アルファルファタコゾウムシ

ラスノエンドウなどで毎年多数観察できます。名古屋市の記録は1999年なのでその頃名古屋に侵入してきたのではないかと思います。

マメ科植物を加害し、一時期はレンゲを絶滅させる養蜂業者泣かせの害虫として新聞でも報道されたこともあります。駆除方法としては、このゾウムシが集団で仮眠をする性質を利用して、農薬を利用せずに駆除する方法が開発されています。

3. オオタコゾウムシ (8mm)

ヨーロッパ原産で、1978年横浜市で確認されました。



写真3 オオタコゾウムシ

千種区在住でチョウチヨの飼育をしておられる方から、2004年の同好会の集まりで「チョウの餌にするシロツメクサにゾウムシがいきました井上さんよろしければ」といわれ、名古屋市内では採集することがないのでありがたかったです。その後オオタコゾウムシ狙いでシロツメクサをみつければ採集できましたが採集できるのはアルファルファタコゾウムシばかりです。2007年春、平和公園観察会の常連さんで虫の観察に造詣の深い方から「井上さんオオタコゾウムシの幼虫を見つけた、飼育していますもう繭を作つてさなぎになりました。差し上げます。」といわれまし

た。私の知識ではアルファルファタコゾウムシは土の中で蛹になると思っていましたのでたぶんアルファルファタコゾウムシだと思いしましたがひそかに期待し、「オオタコゾウムシならお札にご馳走しましょう」と約束して蛹をいただきました。しばらくして成虫が出てきましたが、残念ながらアルファルファタコゾウムシでした。

その後も、シロツメクサを一生懸命探しましたがなかなか見つかることができません。あるとき孫をつれて近くの広場に遊びにいったら、シロツメクサがあつたので孫にシロツメクサの花を摘ませ、私はゾウムシを探しました。しかしそんな簡単には見つからず帰ってきました。帰ってきてしばらくしてから妻が、「こんなところにゾウムシがいるよ」と叫ぶので、見に行くとなんとオオタコゾウムシが壁



写真4 ヤサイゾウムシ

weevilと呼ばれる野菜類の害虫です。

を徘徊しているではありませんか、大喜びで早速採集しました。きつとさっきの公園にいたのが孫か私の衣服についてきたのだろう、もう一度その公園に行こうかと思いましたがすでにあたりは暗くなっていたのであきらめることとしました。その後も何とか自力で千種区内で採集しようとしています。採集できません。私と相性が悪いのでしょうか。

4. ヤサイゾウムシ (8.5mm)

ブラジル原産で、1942年岡山県で発見されました。世界各地に広がっています。Vegetable weevilと呼ばれる



写真5 ケチビコフキゾウムシ

文献
ゾウムシの日本への侵入年、原産国などは下記を引用しました。
森本 桂 日本へ侵入したゾウムシ類の見分け方と被害 農業研究 Vol.35 NO.1 (No.137) 1998

5. ケチビコフキゾウムシ (4.5mm)

ヨーロッパ原産で1930年以降日本に侵入したと考えられています。平和公園のシロツメクサから採集しました。

東山キャンパスでは時々採集できます。採集した植物で記憶に残っているのは、工学部2号館北側のヒメジヨウから採集しました。

用語の問題

以前から文法論関係の論文を読んでいて、気になって仕方ないことがあった。研究発表を聞いているときには、

即座に質問をして訂正を求めた。相手は、駆け出しの学者とか学生というのではない。れっきとして研究者達だ。然も、言葉を対象として、それを研究している方々だ。そういう質問をしたりすると周囲から「又言ってるな」と思われもし、言いもされたが、放っておく訳にはいかない。

今読んでいる論文にもそれが枚挙に暇無いほど出てきて、げんなりするが、大変魅力的な論文なのでそれを堪えて読んでいます。後で著者に問いただそうと思っている。

「語彙」という用語と、用語と言うほどではないかも知れ

ないが「本論」という言葉の使い方だ。

「語彙」は vocabulary の訳語であることを意識すればこんな誤りは無いと思う。「語彙」を「単語」「語」とほぼ同様の意で用いているのである。それと同時に「語彙的」という用語も頻出する。いずれも、決して文字通りの「語彙的」ではない。元々、文字通りの意味での「語彙的」という用語が使える場面など中々思い当たらない。いずれも「語の」と言った意味で使われている。lexical に当たる言葉として、「語彙的」と用いているのである。元々、lexical を「語彙的」と訳したことが間違いである。全部見たわけではないから、やっぱり今でも「語彙的」と訳しているものもあるが、最近のまともな辞書はさすがにこれを「語彙的」とはしない。「語義的」とし

ている。これなら何の問題もない。こんな事を言っているのも一向具体的なことは分からないので、その用例の一部を挙げよう。

例えば、「語彙的レベルでの使い分け」「語彙的意味を担う動詞」「語彙的意味が等しく」「原初動詞とアスペクトの違いを担う派生動詞の関係はそれぞれ独立した語彙ではなく」「完了と不完了の体の対応する形式は語彙的な意味に差異がなければ」「語彙レベルの派生」「上記のような錯綜した対応になるものはすべて、別個の語彙とみなすとしたらどうだろうか」「別々の動詞語彙」「接尾辞付加によって二次派生した不完了体の場合だけを同じ語彙に属するものとみなし：全て別語彙とみなす」「動詞の語彙単位」「独立した語彙単位」「語彙に埋め込まれた文法範疇」：、まだまだ枚挙に暇無いが、大方お分かりであろう。この全てが「語」で十分なのである。「語的」は語呂が悪いという指摘もあるが、いくら語呂が良くてもまち

がつては仕方がない。「単語的」なら間違いではないが、どうも使われないようだ。「語としての」と言えばいい。「動詞語彙」などと言えば、あらゆる動詞をひっくるめた物になってしまふ。単に「動詞」だけでいい。

ついでに、この論文中に何回か使われている「本論」。「本論」と言えば、反射的に「序論」「緒論」「終論」「付論」などを思い浮かべてしまふが、ここでは「この論文」という意味で使われている。時々そういう用法を見る。学生であれば直ちに訂正させるが、こういうれっきとした学者の本の中に使われていると何とも成らない。違和感を感じるだけだ。「本稿」とか、「本論文」と言えば問題ないと思うのだが。教えて貰ってないのだから、いやしくも言語研究者だ。その辺は考えて欲しい。

(T)

特製納豆のレシピ

子供の頃、この地方ではあまり納豆という物は食べなかった。時折、藁づとに包まれた納豆を見ることはあっても、その強烈な匂いにひるんで、食べようなどと思ったことはなかった。早起きの納豆売りの歌などがはやつたこともあった。関東では一般的だったようだが、中部以西ではあまりそれを食べる習慣は根付いていなかったように思う。とにかく、学生時代を含めて、人生の前半には納豆と言え、甘納豆か、せいぜい大徳寺納豆、いま普通になった糸引き納豆は食べたことがなかった。

それが、仙台でイカ納豆という物を食べてから、こんな美味い物か、食わず嫌いだつたなと納豆に対するアレルギーがなくなった。それでも、納豆を常食とするようになったのはつい最近のことだ。

又、今書こうとしている「特製納豆」を作るようになったのは未だ2年にも成らない。しかし、それがとても美味いので、会う人には口頭でそのレシピをお教えするのだが、ここに書いて皆様にお勧めしようと思う。納豆は体にいいという。本当は、そんなことはどっちでもいいのだけれど、でも、今、食の安全ということの喧しい折、少しでも体にいいという物を食べたいと思う。しかも美味しいのだ。

普通、納豆を食べるとき、パックに付いているタレや芥子を混ぜ合わせ、鰹節やネギを添えるくらいが、定番かと思う。私もそうしていた。しかし、その頃は、納豆のおいしさを感じるところまではいかず、むしろ薬でも飲むように胃に流し込んでいた。ところが転機があった。テレビ番組「ためして合点」で、きなこを味噌汁に入れると、とても

美味くなるということをやっているのを見た。味噌ときなこが相性がいいのだという。そしてら納豆ときなこも思いつてやってみたところが案の定いける。それが始まりで、いろいろの物を混ぜてみた。今やこの納豆がメインディッシュといつていいくらいだ。

何を混ぜているのかを言おう。他に、何でも混ぜてみればいいと思う。必須のものは、きなこ、大根おろし、トマト、鰹節、煮干しの粉（この頃こんな物まで売っている）、ごま、ねぎ。この他に、芽株を粉にした物、これは少しだけだが、随分味が良くなるような気がする。ごま、じゃこ、たらこ、わさび漬け、金山寺味噌など。塩鮭の焼いたのを少し入れたり、切り身の煮魚なども混ぜることがある。オクラ（「陸蓮根」と書くのだそうだ）も混ぜると美味くなる。塩昆布を微塵に切って混ぜる時もある。プロテインを混ぜたこともあり、韓国人留学生に貰ったソニンシク（ソニンシクには麦、豆、りんご、

モロコシ、粟、ゴマ、などの12種類が入っているということでした）という粉を混ぜたこともあった。要するに何でもいい。納豆の本体はせいぜい80×90グラム、これらを混ぜると、400グラムから500グラム、どんぶり一杯になる。

味は、天下一品と思うときと、アレツ、ちよつと今一だなあと思うときと、同じ物を入れてもあるが、大体は美味しい。今朝、大根や、トマトの味が関係することに漸く気づいた。

よく聞くけれど、生卵は入れない。一度やってみたが生臭かった。

朝ご飯のおかずは、ほぼこれだけで十分、夕飯の酒の肴としてもとてもいける。皆さん、どうぞおためしあれ。また、他に何か混ぜるにいい物が有れば教えて頂きたい。

(丁)

ニュースに二喝!!

学習指導要領の改訂

今回の改訂は、ゆとり教育の終焉でもある。「40年ぶり授業数増」という見出し、工藤力男氏には叱られる見出しだ。私も「授業数」が増えたとはなんの事かと怪訝に思ったが、読んでみると「授業時間数」が増えたということだ。一字でも減らしたのだから、減らしていいものではないものがある。いきなり話が逸れた。

テレビのニュースでも、歓迎する意見と、詰め込みを懸念する声、こもごもだ。歓迎と反対の割合までは分らない。率直に言って、簡単に結論は出しにくい。これと同時に、神奈川県で日本史を必修にするというニュースもあり、道徳教育を強化するということも報道され、いづれに関しても、識者という方々のコメントがあった。テレビ

で流されるのはその一部、しかも、言つては差し障りがあるかも知れないが、評者が力を入れたところと言うより、メディア側の気に入つたことだけを流すということがあるから、本当はそれで判断は出来ないかも知れない。それを承知で言う。

道徳教育教科の内容を聞けば、「挨拶をする」とか「社会の決まりを守る」とか、ごくまともな人間として生きていくのに当たり前のことばかり、この程度のことにしても、教えられる先生が居るのかとか、大人が駄目なんだからと疑問を呈する方もいらつしやる。しかし、だからと言つて教えなくていいというものでもない。私は、大学での講義の折にも、挨拶について教える。挨拶することを家庭で教えられていないから、しな

いだけなのだ。知らないことは何ともならないから、教師の立場で教えるわけだ。天下の名大でもそうだった。いや、名大だからそうなのかも知れないけれども…。道徳教育の内容として、他に、どんな重要なことがあるのか、不勉強で知らないが、この程度のことを教えるというのに、目くじらを立てる必要があるのだろうか。

日本の歴史を知らなくて良いなどということはない。他を理解するためには、自分をよく知らなければならぬ。勿論、日本史については、相反する主義主張で、いがみ合っている問題もある。客観的に教えればいいとはいふもののそれについてすら何が客観的かということが問題になるから、十分吟味しなければならぬが、日本人として知つていて当然と思われることは是非教えて欲しい。

数学・理科等についても、かなり内容が濃くなるということだ。ついて行けない子供が出るのが心配されている。そういう子供を放置していいわけではないが、今の内容を歯がゆく思っている生徒も居よう。一律にするこの出来ることと出来ないことがある。全部を一律に

しようと思うのがそもそも間違ではないか。人それぞれには持つて生まれた天分がある。なかなか難問であるが、それぞれの天分を伸ばすことを考えるべきだろう。出来ない子供を放置することがいけないと同時に、出来る子を放つたらかしにすることも良くない。

その意味で、中日新聞2月16日の社説「習得できるか心配する」というのは一方を見落としている。

ただ、せっかく根付き始めている総合学習の時間が削られてしまふのは、これを無駄だと思つているのかも知れないが、大変残念だ。この削減は思いとどまつて欲しい。

又、言われているように、この学習指導要領改訂が、国際的な学力テストの結果、日本の学生の能力が落ちた、順位が落ちたというようなことから、これではいけないというので付け焼き刃的にではないにしても、対抗意識からそうするのであるならば言いたい。何も、一位でなくともいいのだと。それぞれ個性を生かして世のため人のためになればいいのだと。

(田 2008・2・16記)

自転車乗りの思い

今朝の中目新聞(2008.2.4)に自転車の三人乗り禁止という記事があった。

この頃、自動車の事故は減る傾向に有るのに、自転車事故は逆に増えており、重大事故もあるから、その対策に乗り出そうとしている一環だ。保育園、幼稚園の送り迎えに一度に二人、前後に乗せていきたいお母さん達のブーイングが聞こえる。分らないでもないが、危険なこととは大いに危険だ。特に降り降りの際は大変危険。事実そういう時に事故が起きているという。私自身にはそういうことは出来ない、やれと言われたら、断る。二人乗りすらいやだ。荷物を一杯積んでいるのも、その装置のある自転車ならともかく、見ていて危なっかしい。そんなのは自動車を運転する立場から見れば、危険信号のような物だろう。

自転車に乗る人には気をつけて貰わなければならないことが

多々ある。私は、そんなことを言う以上は、守っている。暗くなつて帰宅するときなどに、一番危険を感じるのは無灯火だ。それがすこぶる多い。町の真ん中なら、回りが明るいからいいように思うけれど、少し町中を外れたら、無灯火は、自分自身も大変危険である。一々そう言つてやりたいが、今の世の中、下手に注意して、逆ギレされてはたまらないから、忌々しいが黙っている。危なくて仕方ないのは、ケータイでメールを見ながら来る人だ。前を見ていない、メールを見ている。そんなに寸暇を惜しんでみなければならぬのか。これは退屈しのぎといったものではない。それに比べればケータイで喋っているのは未だいい。今日の新聞記事ではそれも禁止項目に入っているようだ。音楽を聴きながらという人もあるが、よほどの大音量で、周りの音が聞こえないというのであれば考えものだが、普通の音量

ならばいいようにも思う。車に乗っていても、ラジオなど聞いていけないということはないのと同じではないだろうか。タバコを吸いながらなどというのこそ取り締まって欲しい。私も聞きたいのはやまやまだが、耳の形が悪いのか、イヤホンがうまく納まらなかったたので諦めた。今なら、ヘッドホン式の有るのでそれでいいのだが、はやくに諦めてしまつてからは、自転車に乗るときは、自転車に乗ることに専念している。

二列横隊で来るのも困つたものだ。しゃべりながらの高校生に多い。

歩道を通ると、対向車が多いし、当然ながら人も多い。歩道しか通れないところもあるが、そうでない限り、私は、車道の側端を行く。車道の場合、対向車はないからいいが、これがなかなかのくせものであることは、一寸思いをはせていただければわかるだろう。よほど整備された道路以外では、道の端つこはゴミはあるし、穴はあるし、デコボコはあるし、水がたまっていることもある、段差があり、溝もある。大変危険である。不

法駐車車が有れば、危険承知で、その右側、車の多いところを通らなければならない。実を言うと、それでもきちんとした自転車道の作つてあるところ以外の歩道よりはよほど走りやすい。自転車道が作つてあるところでも、よほど意地悪が作つたのか、曲がりくねっていたり、ガタガタの敷石が引いてあったり、煉瓦が敷き詰めてあったり、デコボコになつていたり、困るところもある。今、自転車専用道路を作つているところを見かけたが、是非、自転車乗りの身になつて作つてほしい。皆が皆マウンテンバイクに乗っているわけではないのだから。自転車乗りも気をつけなければならないこと、守らねばならないことが多いが、是非とも、地球温暖化防止のためにも、自転車通勤を奨励し、そのための専用道路を拡充して欲しいと思う。

一つ、自動車にお願いしたい。最近特に気になるが、左折車で左折信号を出さないのが多い。是非、早めにウインカーを点けて欲しい。後ろをいく自転車の身になつてくれれば分かると思う。

(田 2008.2.4)

科学の本(上)

いまフロンテの1階入り口近くに『生命とは何か』(E・シュレーディンガー著、1951年初版、岩波新書)が平積みされています。波動方程式を導き、量子力学の始祖の一人として知られる著者が、1943年におこなった講演をもとに出版された『What is life?』(1944)の邦訳です。1953年にDNAの2重らせんモデルを提唱したワトソンとクリックが、生命の謎を探求しようと思うに至ったきっかけは、この書物を読んだことだったと述べているそうです。

邦訳の岩波新書は、最近まで絶版になっていて、古書店でしか入手できなくなっていました。古書の値段は需要と供給の関係で決まるもので、ネット上のあ

る古書店では一時1万円を超える値段がついていました。

そんなとき、昨年5月に刊行された『生物と無生物のあいだ』(福岡伸一著)は、生命とは何かというテーマに沿って、著者のアメリカでの研究体験を交え、物語風に仕上げたものでした。この本は、高名な学者たちの、卓越した面とともに醜い面をも容赦なく描き、予備知識の貧しい私でも面白く読めました。また福岡氏はこの本で、ワトソンらがDNAの2重らせんモデル発見に至る過程をスリリングに描き、先行する研究としてシュレーディンガーの『生命とは何か』に数ページを割いて紹介しています。

『生物と無生物のあいだ』が好評(オビに「30万部突破」とある)で、多くの読者を獲得するにつれ、シュレーディンガーの『生命とは何か』を読み



『生命とは何か』(E・シュレーディンガー著、1951 岩波新書)

たい、という願望が広がったのは想像に難くありません。岩波書店は昨年11月、ようやく再版を行いました。聞くところによれば、岩波書店を動かすのに名大生協書籍部の果たした

役割は大きく、再版と同時に200部を買い取ったということです。それがいまフロンテに平積みにされている本です。名大の学生・院生・教職員に、読むべき本を手にとつて大いに学んで欲しいという名大生協書籍部スタッフの志の高さを感じます。

しかし(やはりと言うべきか)私にとつてこの本は難解で、本の末尾にある訳者の解説と、福岡伸一著『生物と無生物の……』の紹介を読んでなんとなく分かったような気になりました。

このことを星野香先生(理学研究科准教授、名大生協副理事長)に話すと、「みんなでディスカッションしながら読む本だよ」と言われてしまいました。学生のみなさんにはぜひそのようにして読んでいただけたらと思います。

私は、40年間原子力関連の技術職員として放射性同位元素と、ウランなどの核燃料物質を身近に扱ってきました。ですから放射線には α 線・ β 線・ γ 線……があり、ウラン238の半減期は45億年……と、仕事上の必要から機械

生物と無生物のあいだ 福岡伸一

読み始めたら止まらない
極上の科学ミステリー
生命とは何か?

20万部突破
絶賛の嵐!!

分子生物学の権威は福岡さんの
解説で立てこつて居るから、興味深々だ
文筆がうまい人は稀有である
科学と生命の接点の探求
結びつきが、生命の尊厳を知らしめる

福岡伸一さんほど生物のことを熟知し、
恐ろしいほどに、素晴らしいほどに、
私たちの目の前の生命の不思議を、
語れる人はいません

最相葉月氏
茂木健一郎氏
内田樹氏

講談社現代新書

『生物と無生物のあいだ』(福岡伸一著、2007 講談社現代新書)

的に覚ええました。しかし、それらの現象にどういう必然性があるのか、知る必要もなく今日までできてしまいました。そういうすじみちは量子力学で説明されるときは聞いていましたが、じっくり学ぶ機会をつくらずじまいでした。

私の書棚には『科学に新しい風を』(坂田昌一、1966、新日本新書)、『原子物理学入門』(坂田昌一著、1972、勁草書房)、『夜空の星はなぜ見える―自然の論理』(田中一著、1973、北大図書刊行会)がほこりを被っていました。

これらの本、一々二度は開いた覚えがあるものの、いずれも途中で投げ出していました。ようやく少し時間ができ、再度挑戦したのは皮肉にも原子力から遠ざかった後でした。

『科学に新しい風を』は「新素

ある団塊世代の読書ノート (2) 柴田敏之



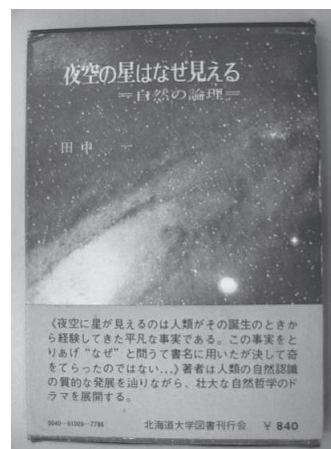
『科学に新しい風』(坂田昌一著、1966 新日本新書)

をくむものといえるでしょう」と結んでいます。同感です。理学研究科物理学教室は、坂田氏の業績を記念し「坂田記念史料室(A館468号室)」を開設しています。名古屋大学は、坂田先生の足跡をもっと

粒子観対話」と「量子力学の解をめぐって」の2つの論文が、対話形式で記述してあります(ガリレオの『天文対話』のように)。「原子物理学入門」に収められた3つの論文は、NHKのラジオで9回にわけて「原子物理学入門」と題して放送した記録と、「私の自然観」と題する甲南大学での講演記録、「科学と現代」と題する富山大学祭での講演記録で、いずれも一般市民を対象にしたものです。「むずかしいことをわかりやすく」とは作家の井上ひさし氏の言葉ですが、そんな配慮が伝わってきます。ニュートンの古典力学を超えたアインシュタインやプランクが、量子力学が切りひらいた自然観を理解せず、自然界は究極的に分かっているという19世紀的成り立っているという19世紀的な自然観を守ろうとしたことを

この本で知りました。名大理学部長を勤められた故坂田昌一先生は、在職中の1970年11月、59歳で急逝され、理学部葬が行われました。私が名大に就職したのは1967年4月ですから生前にどこかですれ違ったことがあるのかもしれませんが、名大トビックス(140号、H17・1・31)の「ちよつと名大史33」は坂田昌一氏を取り上げています。坂田氏が「科学の戦争利用に反対する運動に積極的に取り組み」「核兵器の拡大を憂慮し、科学者による核軍縮運動に情熱をかたむけ」たことを紹介し、「本学の自由闊達な学風と、『名古屋大学平和憲章』(1987年制定)における平和主義の精神は、こうした坂田の科学思想の流れ

をくむものといえるでしょう」と結んでいます。同感です。理学研究科物理学教室は、坂田氏の業績を記念し「坂田記念史料室(A館468号室)」を開設しています。名古屋大学は、坂田先生の足跡をもっと



『夜空の星はなぜ見えない』(田中一著、1973 北大図書刊行会)

誇つてよいと思います。『夜空の星は…』は、光が波であれば星のかすかな光は見えないことを計算結果で示し、見えるのは光が粒子の性質をもっているからだという話題から入り、量子力学が解明した新しい自然観を語っています。その対象は、素粒子から宇宙まで、時間軸では宇宙の年齢100億年を超えて、宇宙の誕生以前の世界から、はるかな未来の世界まで推理をめぐらし、その中の生命・人間の位置づけにもふれた壮大な論理を展開しています。それはSFではなく、科学的洞察の延長として語られていて説得力があります。物理学は「物質の構造を探究し、微視的および巨視的な自

然現象を支配する法則を、物質の構成要素間の相互作用として捉えて探究する学問」(新辞林)ですが、この本はこの定義にふさわしい内容です。量子の世界は、感覚では理解できない抽象の世界です。私の理解ははなはだ不十分ですが、ニュートンの古典力学が通用しない量子の世界をのぞき見て、少し高い位置から自然を理解できるように努めます。ほかにも次の本を参考にしました。『人物で語る物理入門上・下』(米沢富美子著、岩波新書)、『量子の素顔』(田中一著、国民文庫)、『量子力学入門』(並木美喜雄著、岩波新書)。今回は「科学の本(下)」を予定しています。(しばた・としゆき・エコトピア科学研究所技術補佐員)



『原子物理学入門』(坂田昌一著、1972 頸草書房)

教職員委員会合宿の報告

告

去る、3月1日(土)から2日(日)にかけて、名大生協教職員委員会は鬼岩温泉「小松屋」で2008年度方針合宿を開催しました。以下は検討された2008年度の方針です。

教職員委員会の

2008年度活動

方針

組織活動

〇加入推進活動

新しく名古屋大学に赴任された教職員に対して、新しく組合員になられた方には新天地で必ず必要となる名刺作成補助券(2000円割引)と食堂利用プリペイドカードを進呈するキャンペーンを実施します。是非この機会に加入されることをおすすめします。

〇総代の選出

5月30日の総代会に向けて各職域を中心に総代の選出を進めます。

〇総代・組合員懇談会

毎月昼食をとりながら総代さんを中心に組合員の皆様からの意見要望をお聞きする懇談会を開催します。

〇利用者懇談会

春は総代会の議案書説明会として各建物毎で開催できるように準備します。組合員のみならずの周りで総代会について知りたいという希望がありましたらご連絡下さい。

機関紙活動

かけはしを奇数月に発行し、研究科長インタビューを継続して掲載します。生協からの情報と組合員の交流・情報誌となるよう努めます。また、読者参加の懇談会も開催します。

〇コ・ポ・カルチャーセンター企画

〇愛岐三山ハイキング(5月10日)、秋の中山道ハイキング(11月3日)

〇音としやべりの金曜サロン(11月28日か12月5日)

〇地元ジャズミュージシャンによるコンサートを企画します。

〇ビデオシアターで隠れた名作映画上映会を開催します。

〇歌声喫茶(6月・12月に開催予定)

〇文化講演会(検討課題)

平和・環境活動

〇平和憲章エッセイ募集を学生・院生の組合員に呼びかけます。(4月1日～6月末日)

〇名大祭で平和憲章委員会として高知塾講演会を開催します(6月7日)。学生のユニセフ班と協力してミニ

平和資料館を開催します。(6月7・8日)

〇日中不再戦の誓いと瑞浪化石博物館見学を実施します。(9月21日)

組合員交流企画

〇夏のビアガーデンと映画上映会(6月下旬)、冬の赤ちようちんと映画上映会(11月)を実施します。

工場・産地見学

〇マルセパン工場見学を実施します。(5月17日)

〇COPりんご産地見学(11月中旬予定)

〇東海地域・全国との連帯活動

〇全国の大学生協教職員委員会との交流をすすめます。(今年は新潟にて開催予定)

〇東海地域センター教職員活動セミナー(7月19・20日)と多彩な企画を開催します

ので、ご期待下さい。

教職員委員会活動日誌 (2008年1・3月)

月 日	事 項	場 所
1月15日(火)	常任理事会	ゆ〜どん
21日(月)	1月度教職員委員会	I Bカフェ
24日(木)	東海地域センター地域部会	東海会館
27日(日)	豊川海軍工廠跡地戦跡見学ツアー	STE研究所
28日(月)	1月理事会	フレンドリィ南部
30日(金)	第14回名古屋大学・生協懇談会	グリーンサロン東山
2月5日(火)	平和憲章制定21周年記念企画	
8～11日	映画「硫黄島からの手紙」上映会	理学部 B06 大講義室
12日(火)	スキーツアー(主催者の都合により中止)	
18日(月)	映画「父親たちの星条旗」上映会	理学部 B06 大講義室
23日(土)	2月理事会	フレンドリィ南部
3月1～2日	ミステリー酒蔵ツアー	ミキモト真珠島と元坂酒造
	教職員委員会合宿	鬼岩温泉「小松屋」
	「ホットジャズライブ at 師走」	
17日(月)	総代・組合員懇談会	グリーンサロン東山
17日(月)	2月度理事会	フレンドリィ南部
24日(月)	2月度教職員委員会	ゆ〜どん

名大生協



「かけはし」編集委員会行

山 折 り

○氏 名 _____ 組合員証番号 _____

○所 属 _____ 研究科
学部
センター 専攻・課
学科・掛 (教職員・院生)

○連絡先 _____ 内線 _____

○誌上匿名希望の方はペンネーム _____

山 折 り

①愛岐三山ハイキング&バーベキュー【5月10日(土)】

②マルセパン工場見学【5月17日(土)】

参加申込用紙

番号	氏 名	所 属	年齢	内 線	組合員証番号

※保険加入において年齢が必要です。必ずご記入ください。

_____ アンケートに _____
_____ ご協力願います。 _____

第 276 号

クイズのこたえ _____

☆今月号を読ん
での感想

☆記事にしてほしいこと。生協へのご
意見やみなさんからの通信をぜひ。

COOP クイズへの応募、アンケートの回答は、<http://kyoshoku.coop.nagoya-u.ac.jp/kakehashi/answer.html> から送信できます。また、e-mail: kyoshoku-c@coop.nagoya-u.ac.jp でも受け付けます。必要事項をもれなく記入してください。

か

1・2月号 の感想

「教師冥利」に大いに共鳴

★「魔言」の「教師冥利」には教員として大いに共鳴いたしました。ただし「即刻大学を」の発言は、今の学生には残念ながら通用しないと思われます。

【ふじ組】

期待に応えられるよう

★16Pの「教師冥利」の記事が啓発的でよかったです。大学生となつて1年が経とうとしていますが、レポート等の課題には全力で取り組んできたとはいええず、果たして自分は教授達の期待に応えてこれたのだろうかと考えさせられました。来年こそは、意気込む教授の期待に応えられるようにしていきたいと思っています。

【吉澤真澄】

読んでみても掲載!?

★前回号で「読んでいません」っていう感想が掲載されていたのがおもしろかった

【本名】

読んでいない。

【ブシュギ】

今年をよく目にする

★広木先生の新フィールドノートではどんぐり研究者たちの話が面白かったです。魔言でふれられていた五画鉛筆、どのような使い心地なのでしょうね。たしかに気になります。毎年受験シーズンになるとこの手の合格祈願が話題にあがるのですが、今年は特に良く目にする気がします。

【玉木一郎】

とても読みやすい号でした。

【チョウ☆ユウスケ】

★車に酔うからワゴン車はつらい★リングの産地見学の記事を読んだ、来年は家族で参加してみたいと思いました。ただ、私も子供も車酔いしやすいので、ワゴン車はつらいかも。

【Y】

だめな大人になったのかな

★落ち葉、腐葉土の中のゾウムシを読んで、小さい頃に虫取りをしたことを思い出し、懐かしい思いがしました。夏休みといえば、蝉やカブトムシを追いかけていた記憶がありません。今は、昆虫を見ると気持ちが悪く、目な大人になってしまったのでしょうか。

【高木克巳】

け

15%は少ないの?多いの?

★冬の組合員交流企画の報告で、前号に載っていた企画の様子がわかりよかったです。献血できなかった人が15%で少なかったとありましたが、私のイメージより多いのだな、と思いました。

【ちよこれーと】

読書ノートが興味深かった

★「ある団塊世代の読書ノート」のコーナーを今後も掲載してください。紹介された本のタイトルくらいは子供の頃に聞いたことがありましたが、内容はほとんど知らなかったもので、記事が興味深かったです。

【JJJ】

通勤電車は読書に集中できる

★「はじめに電車の中で読んだ本」が目に残りました。通勤電車の中というのは、騒々しい空間ではありますが、何故か読書に集中できる空間でもありますね。

【赤塚保雄】

意見と

通信

はずしたのは私です

★前回のクイズをはずしたのはわたしです

【本名】

記念講演の予定が知りたい

★そろそろ退官記念講演があると思うので、予定などを載せてもらえたら良いと思います。

【玉木一郎】

▼本号の発行が大幅に遅れてしまい間に合いませんでした。【編集部】

研究者にスポットを

★光る研究者、みたいな企画で研究者にスポットライトを当てたような企画をお願いします。

【チョウ☆ユウスケ】

現状維持でお願いします。

【ブシュギ】

離れる方に思い出を

★卒業・転勤・退職のシーズンですので、名古屋大学を離れる方々に名古屋大学の思い出を語ってもらいましょう。【JJJ】

▼毎年定年退職される方に原稿を依頼して特集号を発行しようと企画しています。今年も本号の裏からのページで掲載しました。準備や名簿の入手に時間がかかってしまい発行が大幅に遅れてしまいました。退職される教職員全員に依頼したのですが今年は7名の教員の方から原稿を頂くことができました。

【編集部】

は

し

の

輪

No. 276
2008 月 3・4 月号

縦と横に書かれた数字にしたがって
マスをうめていくと絵（または文字）
が現れます。それは何でしょう。
（ヒント＝豊川と言え）

[illegible]

クイズが解けたらぜひ応募してください。クイズの嫌いな方は、ご意見だけでも歓迎します。

前回の正解は「SKI」でした。解き方がまだわからない方は、解答の絵の数字と黒マスの関係をよく見てください。

前回の
問題

前回の
問題

あなたも Logic の問題を創作(出題)してみませんか。問題の投稿も歓迎します。手描きでもOK。

採用の方には図書カードを進呈。

応募要項

- 締め切りは4月17日
- 発表は本誌、5・6月号
- 正解者(但し、①組合員
Ⅱ当選後ご加入も可、②
意見・感想記入者)の中
から、抽選で5人の方に
図書カードをさしあげま
す。
- 生協への意見・要望をど
しどしお寄せ下さい。

第275号の当選者

・応募総数	・・・11人
・正解者数	・・・11人
・当選者（敬称略）	
滝川 睦（文学研究科）	
山本 順子（環境学研究科）	
小川さおり（生命農学研究科）	
玉木 一郎（生命農学研究科）	
赤塚 保雄（情報連携基盤C）	

以上の5人の方に図書カードをお送りします。